

「第5回生物の多様性を育む国際農業会議(ICEBA)2018」をいすみ市で開催

The 5th International Conference For Enhancing the Biodiversity in Agriculture 2018

生物多様性の保全・再生の視点で取り組まれている有機農業や環境保全型農業、それらを基盤としたまちの活性化を議論するアジア最大級の国際会議「生物の多様性を育む国際農業会議(ICEBA)」の第5回が、日本、韓国、フィリピン、ブータンの4か国参加のもと、2018年7月にいすみ市で開催されました。3日間にわたる報告と議論を受けて、いすみ宣言「里山・里海を守る生物の多様性を育む農業」が採択されています。



生物多様性農業現地見学



ICEBA2018 集合写真



夷隅小児童の発表と閉会宣言

「いすみ宣言」は
こちらから↓



いすみ市の有機の学校給食

生命あふれる豊かな自然と子どもたちの未来を支えるために、2017年から全国に先立ち、いすみ市の学校給食のお米は農薬・化学肥料を使用しない有機米を100%使用しています。2020年現在、野菜も7品目で有機農産物を使用しています。この取組は、国をはじめとする各分野から高く評価され、2020年に農林水産大臣賞と辻静雄食文化賞を受賞しています。子どもたちの食べ残しも大きく減りました。



有機米の学校給食



有機米いすみっこ



給食野菜の収穫体験



給食有機畑の看板

いすみ教育ファーム「田んぼと里山と生物多様性」

有機米づくりの体験と環境教育、食育を一体とした授業を小学5年生を対象に年間として実施しています。出前形式の授業も含めると、4つの小学校が「田んぼと里山と生物多様性」の授業に取り組んでおり、多くの子どもたちが一年で一番楽しい授業に挙げています。



有機米の田植体験



有機水田の生きもの調査



有機米の脱穀体験



いすみ教育ファームテキスト

将来展望 「生物多様性の主流化。持続可能な農林漁業を」

2015年、生物多様性の保全・再生と賢明な利活用をすすめるための指針として『いすみ生物多様性戦略』が策定されました。全国が注目するいすみ市の「学校給食の有機化と有機農業の推進」の取り組みはこの戦略の重点事業の一つです。生物多様性の保全と持続可能な利用をさまざまな社会経済活動の中に組み込むことを「生物多様性の主流化」といいます。いすみ市のような社会経済活動の中心に農林漁業がある地域では、**持続可能な農林漁業が地域振興とよく重なり合っています。**これからも、いすみ生物多様性戦略に定めた対策の7つの柱に従い、生物多様性を主流化することで豊かで快適な地域づくりをすすめていきます。



いすみ市役所 農林課 〒298-8501 千葉県いすみ市大原7400-1
電話:0470-62-1515 FAX:0470-63-1252 e-mail:nousei@city.isumi.lg.jp
「いすみ生物多様性戦略」の全文及び各施策の進捗は、いすみ市のHPからダウンロードできます。



2021年3月
いすみ市



いすみ生物多様性戦略

ポスト2020年
に向けて

生物多様性豊かな地域づくり 里山里海を守り伝える人づくり

いすみ市は「生物多様性豊かな地域づくり、里山里海を守り伝える人づくり」を合言葉に、市民一体となって2015年2月『いすみ生物多様性戦略』を策定し、持続可能なまちづくりをすすめています。

2015ー2020年の間にどのような取組が成果を挙げているか、そして、ポスト2020年に向けた展望をパンフレットにしました。

＊ 2020年は、生物多様性の損失を減少させるための世界目標である愛知目標といすみ生物多様性戦略(第1期)の目標年次です。次期世界目標は2021年に策定されます。

